限界集落 癒やし無限大

白山・瀬波 里山整備し再生

上全国から見物客が訪れる国内最大級のカタクリの群生地＝4月（白山瀬波の会提供）　下里山を整備し続ける地元住民ら＝いずれも石川県白山市瀬波で

白山麓を流れる瀬波川沿いにある石川県白山市の小集落・瀬波地区。人口四十三人、高齢化率八割超の「限界集落」に近年、自然の癒やしを求めて全国から多くの人が訪れている。昨季のキャンプ場利用数は約四百組と、四年前の開場当時と比べて十倍に。里山再生のモデル地区として林野庁が注目しており、専門家も「地域を活性化しながら景観を再生させる循環が成立している」と指摘する。（都沙羅）

ここ数年、春になると集落からの林道を進んだ手取川支流の瀬波川沿いに、車がずらりと並ぶようになった。お目当ては、近くのオンソリ山（八八八メートル）を登った先にあるカタクリの群生地。約二ヘクタールの花畑は国内最大規模とされ、県内外から多くの人がかれんなピンクの花を見に訪れる。

山を下った川のほとりには瀬波川キャンプ場があり、テントを張った若者や親子らがキャンプを楽しむ。

瀬波地区は約五十年前に炭焼きを廃業してから森林が荒れ、雑木が茂り登山道は廃道になった。若者は地区外に出るようになり、「このままでは将来廃村も」と住民らが危ぶんだ。

二〇一六年、地元有志数人で任意団体「白山瀬波の会」を結成。広崎邦夫さん（六七）が中心となり、廃道になった登山道復活に向けた取り組みを始めた。活動を支えるため、広崎さんが勤める上下水道コンサルタント業「中央設計技術研究所」（金沢市）の出資を受けた会社「白山瀬波」が協力。間伐や雑木の整備を続けた。

一般の観光客が登山道を歩きやすいよう、伐採した樹木を使って階段状の道を造る工夫も。整備が進むと薄暗かった森林に次第に光が差し込み、登山道沿いにカタクリの群生地が再生した。登山愛好者の間で評判になり、雑誌やテレビで紹介されると訪れる人が次第に増え、荒れていた森林が観光資源に変わった。

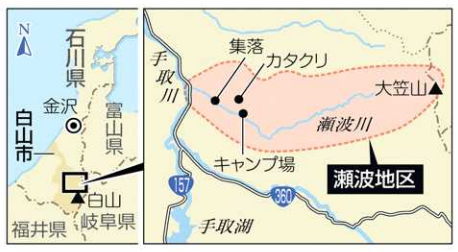
約十五年間使われていなかったキャンプ場の設備も整えると、大自然の中で快適なアウトドアが楽しめる「穴場スポット」として人気に。広崎さんらがガイドになり、周辺で自然体験イベントも開いている。今年は新たに、キャンプ場近くにある市天然記念物の巨木カツラの木を生かした周辺整備を行っている。

二月には、森林を生かした集落の成功事例を紹介する林野庁のセミナー（東京都）に広崎さんが招かれ、国や県の関係者を前に講演した。山村地域の活性化に詳しい金沢大の菊地直樹准教授（環境社会学）は「民間企業が間に入った地域づくりも珍しい。里山の生物多様性につながっており、公共的な価値がある」と指摘する。

定住者を増やすという課題はまだ横たわる。広崎さんは地区の課題や目指す姿をノートに書き残している。「目標を一つずつ達成していきたい。この取り組みが限界集落再生のモデルになれば」と話す。

消滅の可能性のある集落　総務省の調査によると、2019年4月時点で10年以内に消滅の可能性があるとされるのは全国6万3237集落中454集落。四国圏（1.8%）、北陸圏と中部圏（ともに1.2%）の割合が高い。住民の感情面などから「限界集落」という言葉には批判もあり、総務省などの公式文書では使用されていない。

カタクリ群生、キャンプ場 全国から客続々



熊本豪雨 キャッシュレス障害

災害時 やっぱり現金？

政府、対策実験へ

政府がキャッシュレス決済の普及を図る中、豪雨で球磨川が氾濫した熊本県人吉市では、停電と通信障害で一時現金しか利用できなくなり「いつでも使えて安心」と現金の利点や必要性を評価する声が上がった。西日本豪雨などでも同様の問題が起き、脆弱性が改めて浮き彫りになった。政府は災害時を想定した実証実験に予算を計上、対策に乗り出した。

人吉市内のあるコンビニエンスストアは浸水を免れたが、四日から三日間停電。クレジットカードや電子マネーが使えず、現金を持たない客は買い物を断念せざるを得なくなった。三十代の男性店長は「二割ぐらいのお客さんはキャッシュレスを使う。災害時は、やはり現金が安心だと感じた」と話す。

ライフラインとしての役割も期待されるコンビニ各社は近年、防災機能を強化してきている。セブン―イレブン・ジャパン（東京）は、ほぼ全ての店舗に非常電源を備え、停電時もレジが使えるようにした。ただキャッシュレス決済には周辺の通信環境も不可欠で、担当者は「店舗側だけでは対策に限界がある」と指摘する。

懸念の声を受け経済産業省は本年度、災害対策の実証実験などに十億円を計上。災害時、店側がクレジットカード番号を紙に控えるケースを想定し、決済処理が可能かや、不正使用対策につながるかを調べるという。

地方銀行の肥後銀行（熊本市）は現金自動預払機（ATM）を積んだ移動店舗車を被災地に派遣。利用者が列を作る場面もあった。担当者は「キャッシュレス対応も重要だが、現金を提供する責任がある」と話した。

避難所前に停車する肥後銀行の移動店舗車＝熊本県人吉市で

ホルモン剤没収で提訴

「新宿区施設が財産権侵害」

東京都新宿区が所管する福祉施設に入所した際、性同一性障害への対応で使用していた男性ホルモン剤を同意がないまま施設側に処分され、財産権を侵害されたとして、千葉県在住の江口小夜子さん（三四）が新宿区に約百五十万円の損害賠償を求める訴えを起こしていることが、分かった。東京地裁で審理している。

訴状などによると、江口さんは幼い頃から、戸籍上の性別である女性に違和感があり、二〇一一年ごろから男性ホルモン投与を始めた。一方で「自分の子どもが欲しい」と、海外の精子バンクを利用して妊娠、一六年九月に出産した。妊娠期間中は投与を中断していた。

江口さんは当時新宿区に住んでいた。安全な出産のため保護が必要と判断した同区職員らの勧めで、一六年八月ごろから約半年間、東京都の補助を受けている婦人保護施設「慈愛寮」に入所。出産後の九月、投与を再開しようとしたところ、持参したホルモン剤と注射器を区職員らに同意なく没収、処分された。

さらに、十一月まで性同一性障害の専門医にかかることも許されず、精神的に不安定な状態が続いたという。江口さんは施設側の行為の背景には性同一性障害やホルモン剤投与への偏見、誤解があるとして「違法薬物ではなく、当事者が自分らしく生きるために必要なものだと理解してほしい」と訴えている。

新宿区は準備書面で、没収の理由を「医師の処方でない薬物を寮に勝手に持ち込むことは禁止されていた」と説明。事実関係の一部を否認して争う方向。共同通信の取材には「今後の訴訟に影響するので何も答えられない」としている。

成田空港予定地に竪穴住居跡や石器

機能強化計画で調査

成田空港の滑走路延伸や新設を柱とする機能強化計画を巡り、予定地で進められている埋蔵文化財調査で、古墳時代の竪穴住居跡や旧石器時代の石器などが見つかったことが、関係者への取材で分かった。発掘場所そのものを保存する状況には至っていないが、貴重な文化財が今後見つかった場合は計画に影響が出る可能性がある。

成田国際空港会社（NAA）から委託を受けた千葉県教育振興財団が文化財保護法に基づき調査している。関係者によると、NAAが所有する同県芝山町などの予定地で竪穴住居や石器のほか、動物を捕獲する落とし穴や上屋を支える柱を立てた穴などが見つかった。

財団は出土したものを記録しながら調査を進めているが、学術上貴重な文化財が見つかれば県教育委員会とNAAが協議し、その場所を計画から除外するといった対応が必要となる可能性も出てくるという。

機能強化計画はA、B二本ある滑走路のうちB滑走路を現在の二千五百メートルから三千五百メートルまで延ばし、三本目（三千五百メートル）を新設し、年間発着枠を現状の三十万回から五十万回に広げる。完成期日は二〇二九年三月末。

滑川漁港に遺体

男性、脇腹に外傷

十九日午後四時五十分ごろ、富山県滑川市坪川新の滑川漁港で、防波堤に男性の遺体が横たわっているのを海上の船から男性が発見し、一一〇番した。

滑川署によると、遺体は三十～四十歳代の男性とみられ、身長は一七〇センチほど。ワインレッド色の長袖シャツ、黒色の長ズボンとスニーカーを身に着けていた。

左脇腹に外傷があり出血していたといい、署は司法解剖して死因を調べる。

昇太さん しばらくぶり

観客数制限 金沢で今年初 中日寄席

卓越した話術で会場の笑いを誘う春風亭昇太さん＝19日、石川県立音楽堂で

新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催を見合わせていた中日寄席が十九日、金沢市の石川県立音楽堂で今年初めて開かれた。春風亭昇太さんが古典と新作落語を軽妙に語り、再開を心待ちにしていたファンを沸かせた。会場では、観客を定員の半数以下（三百五十席）に減らすなど感染防止策を講じた。

昇太さんにとっても四カ月ぶりとなった独演会。「舞台は好きなことを言える。僕と皆さんとの信頼関係で生まれている空間。芸人の最大の喜びです」とあいさつした。

一席目に演じたのは、親孝行とは程遠い男に孝行の大切さを説く古典の「二十四孝」。テンポよく語り、客の心をほぐした。二席目の新作落語「人生が二度あれば」は、コロナ禍がいつか過去の話になればと願って選んだという。三席目は、ちょうちん屋が大関花筏になりすまして巡業に出る「花筏」。円熟の話芸で、最後まで客を魅了した。

終演後、昇太さんは「舞台は生でないと魅力を伝えられない。音楽ライブも、演劇も、落語も、日常と違う異空間に行くことが生の良さ」と取材に語った。

コロナ禍で伝統芸能、舞台芸術は公演中止が続く。「舞台の収益はゼロ。音楽家も落語家も役者も大変。落語はフットワークが良く、経費もかからず、舞台も一人しか出ないため密じゃない。その強みを発揮し、早く戻れるのでは」とも。「時間はあるので、来るべき時に向けて勉強しておく」と前を見た。

中日寄席は北陸中日新聞発刊六十周年記念。本紙と石川テレビ放送が主催し、エフエム石川が後援した。

通風筒

◇…北海道浦幌町でアイヌの伝統儀式「カムイチェプノミ」で使う新しい丸木舟が完成し十九日、町内の川で進水式が行われた＝写真。浦幌アイヌ協会が川沿いで神に祈る儀式を実施。舟に魂を入れた後、司祭ら三人が乗り込んで進水させ船首にはめこまれた舟の神様のイナウ（木幣）に安全を祈った。

◇…舟は池田町で伐採した直径約九十センチ、長さ約七メートルのトドマツをくりぬいて作った。舟の側面には守り神のフクロウや、水、小鳥、木の神様の文様が彫られている。

◇…浦幌アイヌ協会は、法律で禁じられた河川でのサケ捕獲は、先住民族が持つ権利として、国や道に対する訴訟を検討しており、丸木舟の完成について同協会の差間啓全さん（五三）は「サケ捕獲権を含む先住権回復の一歩になれば」と話した。

「思い出新聞」販売中
1960年11月1日～

北陸中日新聞では「思い出新聞」を販売しています。誕生日や成人式などご希望の日付の新聞紙面をA3サイズに縮小コピーし、専用の二つ折りクリアカバーに入れてお届けします。

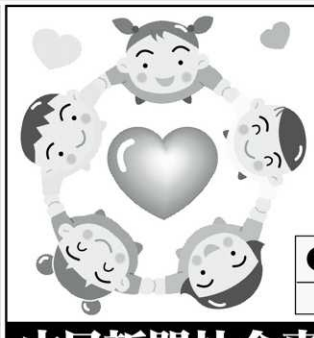
紙面コピーは、「1面と社会面の2枚セット」か「1面のみ1枚」から選べます。贈り主のメッセージを書き込める台紙も付きます。

注文は、中日サービス＝電076（221）6833＝へ。料金は「2枚セット」で800円、「1枚」が600円。最寄りの北陸中日新聞販売店でも注文でき、販売店特別価格で「2枚セット」600円、「1枚」は400円になります。

近畿日本ツーリスト　㈱北日本観光旅行
小松バス㈱　㈱日本旅行
㈱冨士交通　㈱北鉄航空
㈱冨士トラベル金沢　名鉄観光
（順不同）
上記の旅行会社の国内企画商品を取り扱っております。

スタッフみんなで、お待ちしております！

㈱中日サービス　石川県知事登録旅行業 第3－67号　〒920－0025　金沢市駅西本町2丁目12番30号　中日新聞北陸本社内
中日サービスセンター　お問い合わせは TEL.076－221－9121



小さな善意　大きな愛
社会福祉への寄付を受け付けています。
※最寄りの北陸中日新聞の各支局・通信局（部）でも受け付けします。
郵便振替 00730-9-28828　銀行振込 北陸銀行金沢支店（普）4002480／北國銀行本店（普）556721／金沢信用金庫本店（普）484303
口座名 中日新聞社会事業団 北陸支部
中日新聞社会事業団 北陸支部　〒920-8573　金沢市駅西本町2丁目12-30（中日新聞北陸本社内）
TEL（076）233-4644